

# オリーブの実 2012.夏号

発行 児童家庭支援センター オリーブ

松戸市根木内145

TEL 047-340-1151・1153

## 二周年を迎えて

二年前の開設計念に一本のオリーブの木を贈っていただきました。オリーブは自家受粉が難しく「実」を实らせるためにはもう一本の木が必要とのことですが、今年の春に白い花を咲かせ嬉しいことに自力で結実しました。二年目の快挙です。そうすると期待や愛おしさが芽生え「早く大きくなーれ」と施肥をしたり、風が強い日は事務所に取入れたりと、世話にも力が入ってきます。私たちの期待を受けて日々すこしずつ成長し、今では小指の先程の実に成長しました。秋にはどんな色の実になるのか楽しみです。

植物も人間の声かけが理解できるということを聞いたことがあります。植物も人間も優しく・暖かい愛情で包まれ、慈愛に満ちた言葉や立派に育ててほしいという期待を受けることでさらに成長していくものなのでしょう。植物は水をあげ過ぎれば根腐りをおこし、施肥法を間違えれば花が咲きません。それでも翌年には一回り成長して美しい花を咲かせてくれます。

子育てもしかり、いつも順風満帆の時ばかりではないと思います。「すぐ大声で叱ってしまう、こんな私は母親失格?」「学校に行ってくれない、もうどうしたら良いのか」等々…思いどおりにことが運ばないことで親としての自信を失ったり、自己嫌悪に陥ったりなどつらい時もあります。「一人で悩まないで!」だれかに話すことで、真っ暗と思っていた穴倉に一条の光がさしこみ、そしてその明かりが足元を照らし、さらに大きく明るい未来に導いてくれることがあると私たちは信じています。

当センターにおきましてもこの二年間、親子関係ばかりではなく、夫婦間、地域での人間関係など様々なご相談をお受けいたしました。初年度はご相談の主流は電話相談でしたが、昨年度はカウンセリングやお子さんを対象にしたプレイセラピーなどが中心の心理相談、そして相談者の方々の状況に応じて直接ご家庭を訪問させていただく訪問相談などを充実させることができ、より豊かな人間関係の醸成を大切にすることができました。九月一日に、二周年を迎えるにあたり、さらに皆様に気軽にご利用いただけるよう微力ではございますが励んでまいります。これからも宜しく願い申し上げます。

(センター長 富澤和江)

児童家庭支援センターオリーブのホームページができました。

詳しくはHPをご覧ください

## ☆里親制度について☆

最近「里親」という言葉を聞く機会が多くなりました。里親制度は児童福祉法に基づき、貧困・虐待・親の病気など様々な理由で親と暮らせない子どもの養育を都道府県が認定した家庭に委託する制度です。昨年末現在の登録里親数は7180人です。東日本大震災で、多くの人たちが絆や家族の大切さを実感したためか、東京都では登録希望者が例年と比べて倍増したとのこと。家庭を必要とする子どもたちが豊かな環境で育つことができるよう里親への期待は高まっています。

### ◆里親の要件とは

都道府県により若干異なりますが、心身が健全であることや経済的に困窮していないこと、そしてなによりも子供に対して豊かな愛情を持っている方ということがあげられます。また家族全員が理解していることも必要です。

### ◆どうすれば里親になれますか

ご自分の居住している児童相談所に里親の申請をします。その後都道府県の研修や家庭訪問調査を受けて審議会です承されれば認定されます。

### ◆里親の種類は

養子縁組里親と養育里親に二種類に大別されています。養子縁組里親は、養子縁組を前提とした里親で一生親子関係が続きます。養育里親の場合は、実親が育てられるようにまでの期間(短期も含む)、あるいは子どもが社会的に自立できるようになるまでの期間実親に代わって養育する里親です。

### ◆参考までに

里親の坂本洋子さんが視察にきた石原慎太郎東京都知事に勧められ出版した、『ぶどうの木』—10人の“わが子”とすごした里親18年の記録—(幻冬舎)が昨年ドラマ化もされました。坂本さんは「私の人生の師である子どもたちは、人間として何が大切かをいつもさまざまな形で教えてくれます」と書いておられます。



## ☎電話して つながるきずな 広がる支援 ☎

(平成24年9月から相談時間が下記のように変わります)

月・水・木・金・日 9:00~6:00

児童虐待・DV・子育て・子育て不安などの悩みを皆様と一緒に考えていくところです

☆相談は、無料です。相談についての秘密は厳守いたします

☆ひとりで悩まず、お気軽にご相談ください

☆相談事業 電話相談・来所相談・訪問相談・心理カウンセリングなど

☆子どもからの相談をお受けします



松戸市根木内145 TEL 047-340-1151・1153

# \*こころのはんもっく\*



## 絵本と子ども



### その1：読み聞かせは親子のコミュニケーションツール

子どもが小さい時には、多くの家庭で絵本の読み聞かせをしているようです。「字を覚えてくれれば」「語彙が増えれば」「想像力が育てば」といろいろな期待を抱いているのかもしれないですね。字が読めるようになると、「自分で読みなさい。」という親が多いのはそんなことからなのでしょう。

しかし、子どもが自分で絵本を読むこととママやパパに読んでもらう体験とは意味合いが大きく違うように思います。自分で読む時には交感神経が優位になり、読んでもらっている時には副交感神経が優位となると言われます。これは自分で読む時は緊張し、読んでもらっている時は、リラックスし安心しているということです。

また、読み聞かせをしている親の脳では、コミュニケーションをとる時に活動する前頭前野が活発に働き、聴き手の子どもの脳では、情動中枢で「心の脳」とも言われる大脳辺縁系が活発に働いているという研究結果があります。親が子どもの表情を見ながら心を込めて語る言葉は、単に絵本を読んでいるだけではない大きな力があるようです。

子どもは、絵を見ながらお話を聞くことで言葉を覚え、嬉しい、楽しい、怖い、悲しいなどの意味が分かるようになり、行動の中に現われます。やがてそれは、子どもの行動や情緒の安定につながっていくようです。読み聞かせをすることによって、親自身の心も和み、気分が安定するという報告もあります。読み聞かせとは、相互作用を持ったコミュニケーションとすることができるのではないのでしょうか。いつまで読み聞かせをすればいいのか・・・。そんなコミュニケーションが必要なのは幼児の頃だけとは限らないかもしれませんね。夫婦で読み聞かせし合うことも有用とされているんですよ。一度試してみてもどうでしょう。

どんな本を読めば良いか、子どもが読んで欲しい本を読んで欲しいだけ読んであげて下さればと思います。

次回、その辺りのこととお話ししたいと思います。

(心理相談員 齋藤祐子)



## 第3回地域講座

♪講演とロールプレイを交えながら学ぶ♪

「心の通い合う親子のコミュニケーション」

～子どもの心を開く聞き方、子どもの心に届く話し方～

講師 白石仁美先生

「親業訓練」「教師学」シニアインストラクター、千葉県スクールアドバイザー、元上智大学大学院非常勤講師、知的障害者施設・高齢者施設スーパーバイザー、カウンセラー、心理劇学会・上智人間学会会員、ロールプレイング研究会理事

日時 平成24年9月23日(日) 13:30～16:30

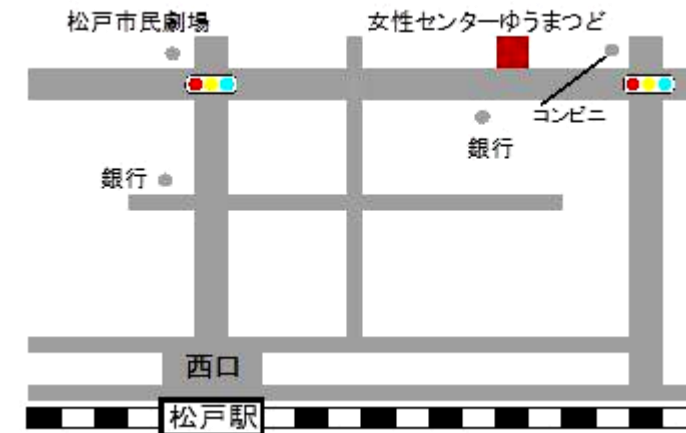
会場 松戸市女性センターゆうまつど 4Fホール

定員 75名(先着順) \*保育あり\* 2歳以上の未就学児(要予約)

参加費 無料

申し込み 児童家庭支援センター オリーブ(要予約)

TEL 047-340-1151・1153



主催 児童家庭支援センター オリーブ

後援 松戸市・松戸市教育委員会、 柏市・柏市教育委員会